

第139号 令和5年7月15日発行

# あまうが通信

あまうが(アモーガ)とは真実

発行所 ひょうたんでら融通尊寺 〒651-0093 神戸市中央区二宮町4-8-14

電話078-221-5136

発行人 住職 宇喜多 智弘(うきた ちこう) メール yuzusonji@gmail.com

FAX078-221-9256

HP <https://www.yuzusonji.or.jp> 携帯 090-1480-4400

たなぎょう

## お盆の棚経について

**お盆参り=棚経をさせていただいておりますお家への、お参りの日時は、お電話にて御連絡申し上げます。(いつも御連絡が遅く御免なさい!)**

お参りの日時を早急にお知りになりたい方は、住職の携帯電話090-1480-4400へお電話下さい。留守番電話になっていますので、ご用件を録音して下さい。後程、お返事申し上げます

ぼんだいせがきほうえ

## お盆大施餓鬼法会のご案内

言葉の旨

融通尊寺本堂にて

**8月15日(火曜) 午前10時と 午後1時の2回 厳修いたします。どちらか都合のよい時間に、お参りしてください。**

毎年猛暑の中、多くの方にお参りいただいております施餓鬼法会です。堂内にて心静かに、亡くなられた大切な方への供養をしていただけたらと、御参拝をお待ちいたしております。人間は体は死んでも、その人を大切に思う人が1人でも居る限り生き続け働き続けるのです。本堂で、ご一緒に「盂蘭盆経」をおとなえし、亡き精霊への施餓鬼廻向を修します。供養、廻向とは、『思い出して差し上げて、死んでも生きている事を確認し合う』共同作業です。施餓鬼法会は生と死を考える集まりです。

しょうりょう え こうりょう

れい い

**精霊廻向料は1霊位3,000円です。廻向ご希望の方は、8月5日までに緑色の申込書にご記入の上、廻向料を添えてお申込み下さい。メールやFAXでの申込も受付けています。**

わからない事は住職の携帯電話090-1480-4400へお電話下さい。

# 《お盆って？》

『盆』という言葉は苦しみという古代インド語で、苦しみからの救いという意味で使われてきました。現在、日本では、《お盆》には亡き方が、生きた方の供養によって死後の苦しみから救われると信じられており、盆踊りは、苦しみから救われた喜びから踊り出したことから始まったそうです。また『盆』という言葉は、文字通りお供えの御馳走を沢山盛った器という意味だという、研究報告もあります。盂蘭盆経も文意はそうになっています。

## いつが《お盆》か？

というと、盂蘭盆経【ウラボンキョウ】というお経に7月15日と書いてあります。ところがこれは旧暦で、旧暦はお月様を中心としています。十五夜お月さんという言葉があるように、旧暦では15日は必ず満月の日です。現在普通のカレンダーに用いられている新暦では、約1ヶ月遅れの8月か9月の最初の満月の日が旧暦の7月15日になります。【今年(令和5年)の場合8月30日(水)が満月で、旧暦の7月15日にあたります】

そこで、現在は大体1ヶ月遅れの8月15日を《お盆》としているようです。ただし、東京では(おそらく帰省の関係で)盂蘭盆経に書いてある通り7月15日を《お盆》としているようです。融通尊寺では、カレンダーの7月15日から8月31日までを《お盆》といたします。

融通尊寺の《お盆》の行事は、住職が各お家へお参りさせて戴く棚経(盆参り)と、皆様がお寺にお参りされる盆施餓鬼法会があります。どちらか一方だけ申込まれる方と、両方希望される方がありますが、どちらでも構いません。申込みなどすべて強制的なものではありません。

最後に、各種廻向料や御布施、御祈祷料などを申込んで、融通尊寺に送金する際の方法をお知らせ申し上げます。勿論、送金したい場合に限りませので、申込まない場合は不要です。

①現金を住職に手渡し、お寺に持参する。

②郵便振替口座に送金する。 01110-3-84884 融通尊寺

③銀行口座に送金する。 三井住友銀行 三宮支店(店番410)普通口座 3507917

(宗)融通尊寺 シュウ)ユウズウソンジ

④現金書留でお寺に送金する。(なるべく①②③でお願い申し上げます)

申込書とは別に送金された場合はその旨、申込書にお書き添えください。申込書も、手渡し、郵送、ファクス、メール等で、お伝えください。

また、送金された場合、確実に着きますので、受け取り連絡は省略させていただきます。ただし、別途領収書が必要な方はお申し出くださいませ。 合掌九拜

